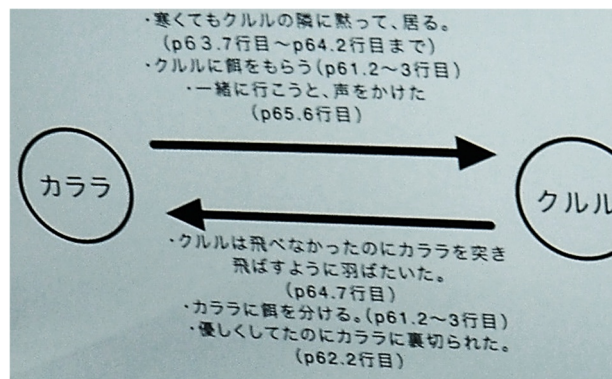


6年生公開授業

11/16(金)は、6年生の国語科公開授業『風切るつばさ』が行われました。

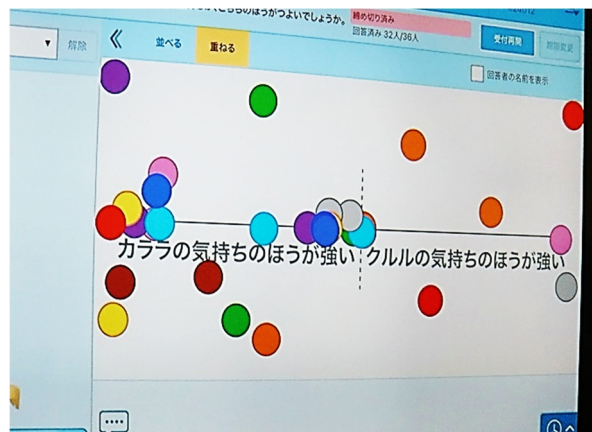
授業

6年生は『風切るつばさ』の学習をワークシートではなく、タブレットを活用して学習を進めてきました。発表ノートを使い、常に自分の考えを整理しまとめる活動を大切にして、毎時間学習を進めていました。また登場人物を児童それぞれがタブレットを使って相関図にまとめ、常に本文を読みながらどのような関係になっているのかを考え、確認してきました。



タブレットを使って相関図を作成

整理していきました。授業者からは“この活動の時間を、取りすぎた”とふりかえりがありました。児童は集中して教材と向き合い、本文を何度も読みかえし意見をまとめていました。タブレット片手に少人数で意見交流をした後は、全体で意見発表。挙手し自ら発表する児童もまた指導者に当てられて発表する児童も自分の意見を堂々と、そして何より根拠をはっきりさせて発表ができていました。常に、“教科書のどのあたりを読んで?” “本文のどこからそう考えた?”と根拠を丁寧に確認し指導を続けてこられたからだと感じました。友だちの意見を聞き自分の意見の見直しまでは時間が足りませんでした。児童の集中した学びが見られた公開授業でした。

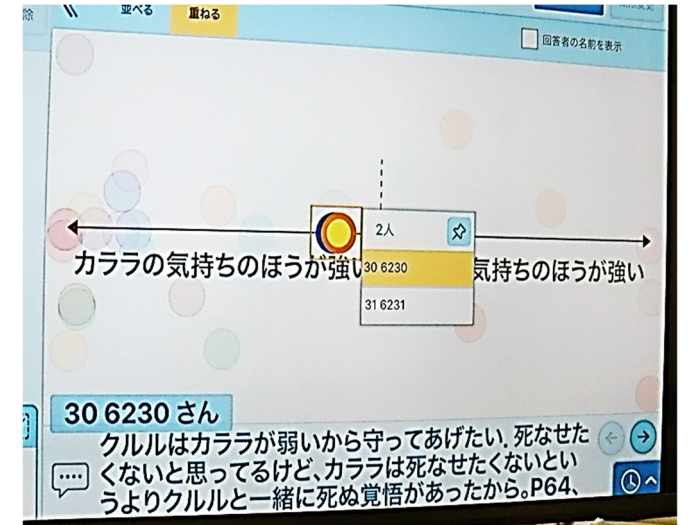


ポジショニングを活用して友だちと比較

高学年ブロック会・事後研

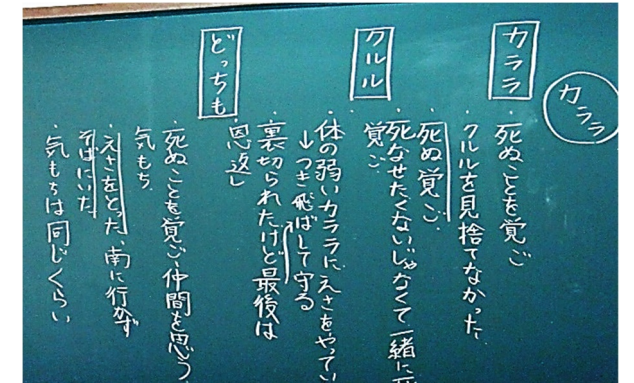
指導者からは、『人物相関図をかき関係性をおさえて、ポジショニングを利用し意見の整理が

できるように進めた。友だちの意見を聞いたのち、自分の意見へのつけたしや見直しを積み重ねたかったが、少し時間が足りなかった。また、発表はできているが、意見交流を深めることはまだまだ。』というふりかえりがありました。学年からも人物の関係図の作成によって関係性がわかると考えやすく、発表ノートは印刷もできるし使いやすい。しかしその反面、タブレットを触りながら話が聞けるかどうかなど、ツールとして便利だがICTのバランスの取れた使い方をどうするかという意見も出てきました。確かにポジショニングの活用や発表ノートといったツールのおかげで考えやすく、また学級全体での意見の共有などもしやすかったように思います。



根拠をもって自分の意見をまとめる

参加者からもタブレットの使用によって、児童が思っていた以上に自分の意見を書き、教科書のどの部分から読み取ったかを答えるなど、みんなで共有している様子がよかったという意見がありました。また『指導法として全文を細かくくぎって学習を進めるのではなく、全体を読んで学習を進めると児童がどこに注目しているか、児童がそれぞれどこを大事にしているかなどがわかった。そこで全体を読んで疑問に思っているところをすい上げ、それ中心に考えることで読みを深めていくことができた。』という取り組みも紹介してもらいました。意見のまとめ方も“〇〇さんの考え方と一緒に~”と、友だちの意見と比較して整理できたり参考にして考えることができていたし、タブレットによって他の意見を十分に見ることができ共有しやすいので、整理しやすいのではないか、という意見もありました。始めの振り返りの時間が長かった分、児童が一人でじっくり学習に向きあい、考えることができた学習でした。意見をまとめタブレットに記入するため教材と対話する、意見発表によって友だちと対話する、聞いた意見から再考することによって自分と対話する、といった意見も出ました。必ず根拠をはっきりさせ自分の意見を発表し、しっかり学びに向かう姿勢が素晴らしい1時間でした。



それぞれの立場の意見を発表

高学年のブロック会・事後研では、

ツールとしてタブレットは有効的で、バランスよく活用していく。

必ず根拠を明確にして意見をまとめ、発表でもその根拠をしっかりと伝える。(聞く)

物語文全体を読み、児童の疑問点や立ち止まった箇所から読みを深めるのも効果的。

などを確認し、事後研を終えました。